

サロン・あべの

<サロン・あべの>NO. 48 平成 2年 6月16日(土) 発行

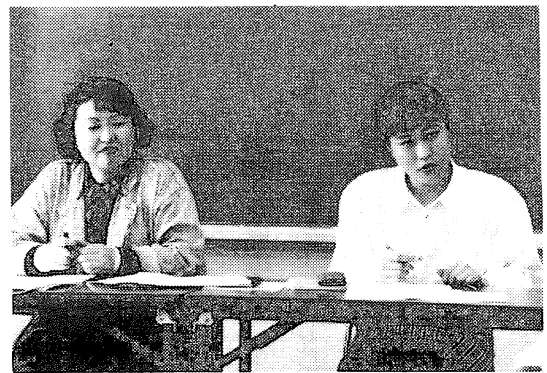
あべのボランティア・ビューローの 役割と活動

△サロン・あべの▽五月の出会い

梅雨のはしりのような空模様の中、平成二年五月十九日(土)午後一時〜四時、育徳コミュニティセンター二階研修室においてあべのボランティア・ビューローと△サロン・あべの▽共催で、「あべのボランティア・ビューローの役割と活動、——こんなビューローであつたらいいな——」と題して集いを行った。

前号のサロン紙や他紙では、この日のパネラーに前田博子氏と案内をしていたが、四月末に思いがけなく急に退職された。それでも、当日は前田氏にご出席していただき、今までのビューロー活動の話を聞き、後任のコーディネーターの吉岡知美氏には、これからのビューロー活動について話をさせていただき予定を立てていた。

同じような企画をもっていた「ボランティアのつどい」グループからそれならと共催の申し出があり、頭初の予定通り準備を進めていたが、種々の事情から前田氏のご出席が叶わなくなった。その代わりに、大阪社会福祉協議会職員の竹村安子氏が、色々とお話をして下さることになった。



あべのボランティア・ビューローの活動を説明する竹村(左)・吉岡さん

あべのボランティア・ビューローの活動

吉岡氏より、平成元年度の事業内容が報告された。

1. 役員会の開催(六・一六)
2. 需給調整事業
3. 教育訓練事業
4. 活動援助事業
5. 広報活動事業
6. 調査・研究事業

この報告の中の需給報告は、ビューロー発足当時よりボランティアとして需給調整に関わってこられた奥田久子氏が、その事業内容の説明と併せてご自分の体験から得た感想を述べられた。

①相手の自立を旨とする活動であること。
②地域住民の利点を生かし、地域ぐるみで訴えていくこと。

③ボランティア自身が、なんの為に活動しているかを常に反省して、ただのお手伝いではないことを自覚することが大切。

(要点のみ)

区ボランティア・ビューロー(事務所)案内ついて、

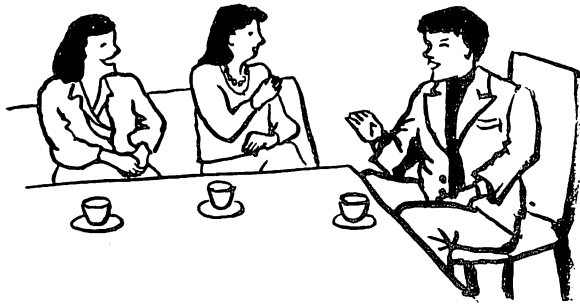
竹村氏(市社協)の話。

現在、大阪市には三ヶ所(阿倍野区、東住吉区、北区)のビューローが設立されている。将来的には、各区に一つづつという基本構想は、変わっていないが、阿倍野区に設立した当時の組織内容とは違う方向へと変化してきている。昭和五年に市社協では阿倍野区をセンター区にして地域振興基金で準備、昭和五八年から区にお願いを

して、昭和六〇年にビューローが開設された。初代のコーディネーターは岡 知史氏つぎに前田博子氏、そして今の吉岡知美氏の三代目誕生となってきた。

この六年間で組織内容も変化してきて、ビューロー開設は区社会福祉協議会内の機構として設置され、事業が進められることになった。(北、東住吉区等)

大阪市二四区がある中で阿倍野区に一番早くビューローが出来たのは、ボランティ



ア活動が古くから盛んであったから。グループとして昭和四九年結成の阿倍野区ボランティア連絡協議会をはじめ、校下社協地区部会(小学校通学範囲)で活動している阪南ボランティア部会、丸山ボランティア部会等がある。

ビューローの働きには、事業報告にもあるように五つ機能がある。これを生かしてボランティアをしている人、したいと思っ
ている人達への活動応援と、ボランティアを欲しいと思っ
ている人への様々な対応を
充実させていかなければいけないので、
これからのビューローは、体制化を進めていく。
その為に阿倍野区ボランティア・ビューローでは、今後ボランティアの個人登録とグループ登録を考えている。

ビューローの組織や機能の話の後、参加者の自己紹介があり、それと共にビューローにたいする希望や質問等が出された。

Q.ビューローの開設日時が、現在は月・水・土の午後一時から七時までになっているが、緊急にボランティアが欲しい時や、連絡したい用事が生じた時困る。現在のままでは不自由を感じる。

A・緊急時には市社協へ連絡を入れてもらってもよいが、記録書類が手元に無いからすぐの対応は、やはり出来かねる。将来的には、考慮して(時間帯等)いくつもり。

Q・ボランティアどうしのパイプをもっと大きくして欲しい。個人活動だけしていると、他の人のことが解らないから。

A・ボランティア間の交流は、「ボランティアのつどい」や「ケース相談会」等があるので、そこに参加して多くの人達の活動を知ってもらい、交流を深めて欲しい。

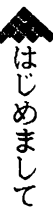
Q・ボランティアどうしが、気楽にちょっと集れる場所が欲しい。場所があれば、ボランティアどうし、少人数の話しあいが出来て、お互いの活動についてもより深く理解しあえるのでは。

A・場所の問題は、難しいところ。どこでも場所捜しには、大変苦労している。

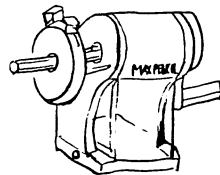
Q・需給調整の報告のなかで平成元年度のボランティア活動の希望者数三〇名、ニグループで実際の登録者数が一四名、ニグル

ープということになっているがこの数字から見ると、活動されるボランティアが減ってきているように思うが、もっと数が必要なのではないか。

A・ボランティアの数だけが、活動内容の目安とはしないが、数が必要なことは確かである。



吉岡 知美



前田さんの後任のコーディネーター、吉岡知美です。この春、大学を卒業したばかりのピッカピカの社会人一年生です。

ちなみに、四月は花博のボランティアセンターで働いていました。

家は、淀川区の三国。地下鉄新大阪駅に

時間いっぱい、様々な意見が活発に出されて、いつもとはまた一味違ったサロンの集いとなった。

この日の参加者は、三一名。

司会は、植松菊雄氏(ボランティアのつどい世話人代表)。写真は上平幸雄氏。

も十五分くらいで行けます。(前田さんと違って、便利なところに住んでいます。)

二人姉妹の長女で、のんびり育ったようです。好きなことは、音楽観賞・歌うこと・ピアノ・スキー(下手だけど、根性で滑っています)・野外活動(小学生の時からガールスカウトに入っています)・バレーボール(中学から大学まで十年間クラブに入っていました)。性格は、明るく、のんきです。

まさに、即席のコーディネーターではございますが、「明るく元気に(?)」をモットーに頑張ります。皆さんどうぞよろしくお願いします。

おしゃべりも好きですので、ビューローにも遊びにきてください。

▲ サロンに顔見世

田中 真知子

五月一九日ハサロン・あべのV、ビューローの共催のつどいに、初めて参加させていただき、初回からこの原稿を頼まれた。

何が苦手かと聞かれたら、文章を書く事と、大勢の人前で話す事の二つが、一番の苦手。その一つを頼まれ、気の弱い？私は断われずに、うなりながら悪戦苦闘。何を書けばいいのか、頭の中はゴチャゴチャ。

昨年の五月にビューローをお尋ねし、前田さん・奥田さんにお世話になり、活動を始めて、ようやく一年が過ぎました。今は視覚障害の方の買い物や、食事の用意等を行っています。食事を一緒に済ませ、後はペチャクチャとおしゃべりしています。

今迄にも、盲人の方との交流は何度かありましたが、サロンでいろんな方達を知り皆さんとても前向きに生活されていらっしゃるのて感心したり、驚いたり。

これからは、サロンの方にも時々顔を見せたいナァ〜と思っています。

どうぞ、よろしく！

● われらがあべのボランティア・ビューロー①

ただ利用してるだけじゃないんだけど

「ボランティアビューローは会員制のスपोर्टクラブみたいなもんやな」と言っていた人がいました。自分がやりたいボランティア活動のお世話をしてもらうために会費を払って登録している様子を見て、そう思ったのでしよう。あべのボランティア・ビューローの場合は会費を払うという事はないからちよつと違うのですが、まあそう言われれば確かにそういうこともあるなと思います。

ボランティアはなぜビューローに参加しているのか。ひとつにはボランティアの活動をするために、そこで需給調整をしてもらつてニードを紹介してもらつたり、必要な情報や知識を得る。これはどちらかというとスポーツクラブみたいなもので、ビューローを「利用する」という感じでしょう。もうひとつはビューローの考え方に賛同して活動を応援していく、つまりビューローを「つくる」という立場です。

ボランティアは主体的なものだからいろ

いろな考えがあつていいんですが、活動を通してよりよいまちをつくっていくということは大切なことだと思います。そのために仲間が集まり、話し合つて協力いくところがビューローだと思つてるんです。

スポーツクラブは自分の目的のために利用するだけだからサービスを提供してくればそれでいいかも知れません。でもビューローは自分たちもつくつていつてるものだから、何でもいってわけじゃない。やはりどんなビューローにしていくのかということにも関心があつて、そしてそれに関わつていきたいと思うんですね。そんなボランティアの気持ちも受けとめてくれるあべのボランティア・ビューローであつてほしいんです。

● 原田 仁

ぜいたくでしようか？
上平 幸雄

賃貸マンションを探しています。2LDK以上の広さ。入り口に段差がない。駐車スペースがある。エレベーターがある。環境が良い。家賃が安い。そして、阿倍野区内であること。そんな、賃貸マンションはありますか？

昨年の秋に足を痛めたことをきっかけに、引越しを決意。地元の仲介業者に頼んでみたりしたもの、納得できるマンションはいまだにみつかりません。

子供がひとりいますので、2LDK以上の広さがほしいのです。ぼくが車椅子を使っていますので、入り口に段差がな

く、エレベーターもないと困るのです。

それに、自動車に乗っていますので、駐車場もないといけないのです。子供の保育所と妻の通勤のことを考えると、地下鉄の昭和町からなるべく近いところが理想になります。しかも、環境が良く、家賃が安い。これだけの条件を、すべて満たそうとする方が無理なのではようか？

昭和町の周辺は、もともとマンションが少なく、あってもせいぜい五階建てまでのところがほとんどです。ですから、エレベーター付きのところも少なく、広さも1DKや2DKがほとんどで、それ以上の広さのところは極端に少なくなっています。駐車場もほとんどありません。それに、ほとんど全部と云っているほどのマンションが、入り口を階段にしています。

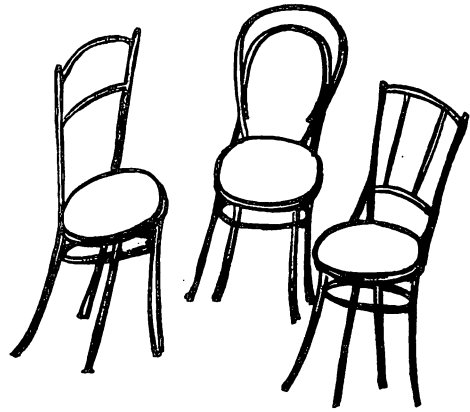
ぼくが車椅子を使っていることから、何度か市営の車椅子住宅を申し込んでみてはとすめられたことがあります。阿倍野区内にはありませんから、昭和町の周辺とはいきませんが、それ以外の条件はだいたい満たせるのです。しかし残念なことに、所得が多いために申し込むこ



とすらできないのです。公営住宅はもとも低所得者を対象としているため、たとえ車椅子の障害者であっても、所得が一定額を越えらとだめなのです。

でも、働いてある一定額以上の所得になれば、もうその人は障害者でなくなってしまうのでしょうか？いくら働いていても、障害そのものはなくならないはず。一般のほとんどのマンションの入り口が階段であったりする現状で、ぼくのような障害者はどこに住めばいいのでしょうか？

力あるひと



にこりと静かに笑っただけで、向い合う人の心を動かせる人がいたら、その人はどんなにか大きな力をもっていることだろう。人を励ましたり勇気づけたりすることは、本当に難しい。一晩じゆう声をからして励まして、ほとんど無駄だったという経験をしている人は少なくないと思う。

たくさんの映画や音楽などが、人を励ましたり勇気づけたりするために作られてきたが、それも、人を励まし勇気づけることがどれほど難しいか、また、励まし勇気づけられることを必要とする人がどれほど多いかということのあらわれではないかと思

う。

だから、本当ににこりと笑っただけで、人を励ましたり勇気づけたりすることができている人がいるとしたら、それはなにか人間を超えた業のように思ってしまう。

しかし、そういう人は、ぼくたちの身近かに何人かはいらぬのではないか。

ぼくの知人にTさんという人がいて、彼女はALSという難病と闘っている。身体中の筋肉がうまく動かないそうだ。呼吸をするため呼吸器を身体につけ、言葉も話せなくなつたために、まだ動く小指の先でコンピュータを動かして意思の疎通を計っている。

ぼくは、このところ月一度くらい、Tさんのお宅を訪問しているのだが、ゆつたりとした笑顔で迎えてくれるのが嬉しい。

ぼくの案内は、まだ日本語もあまりうまく話せない外国人なのだが、来日して二カ月ぐらいたつたころ、いつしよにTさんを訪問したことがあつた。そのころ彼女は、母国語を話せない孤立感や激しい焦燥感から感情的に混乱してさえた。彼女の日本語ではほとんどTさんと話すこともできなかったのだが、それでも、訪問したその日の夜から、彼女はすっかり落ちついた顔になつた。後日、その理由を尋ねたが、やはりTさんの笑顔が彼女に力を与えたらしいのである。

また、こんなこともあつた。Tさんの介護を手伝ってくれるアルバイトの学生さんが見つかつたので、その人を紹介するために訪問したときのこと、夜の介護の排泄のことが話題になつたのである。Tさんには、その日初めてきた学生さんが排泄の介護にとまどつているように見えたのだろうか、小指で長い時間をかけてコンピュータに文字を映し出した。

「おしめでもいいよ」とあつた。

そしてにっこりと笑つて、ベットの脇にいる学生さんや、その横にいるTさんの娘さんや、ぼくに向つてまばたきしてみせた。まばたきは、「うん、うん」とうなづいて、いるというサインなのである。

Ｔさんは「おしめ」はしていなかった。自分で調節ができるのである。でも、そんなことを気にしなくてもいいんだよというように、にこりと笑ったのである。

ぼくは、特別養護老人ホームで、お年寄りが初めて「おしめ」をつけるとき、どんなに辛い思いをするか、どんなに悲しい思いをするかを聞いたことがあった。それを通して、自分でおしめをつけてもいいと言ったＴさんの言葉に胸が詰まる感じがした。人間はこのような厳しい条件にあっても、ここまで強く優しくなることができるのである。

病は身体を弱めるが、人を強くすることがあるのかもしれない。その強さは、とくに人に強さを与えるような強さなのかもしれない。

病や重い障害に悩む人が、福祉や保健の充実した援助を受け、社会に参加していく必要があるというのは、単に悩んでいる人たちの権利だからというだけではないのではないかと、ふと思つた。

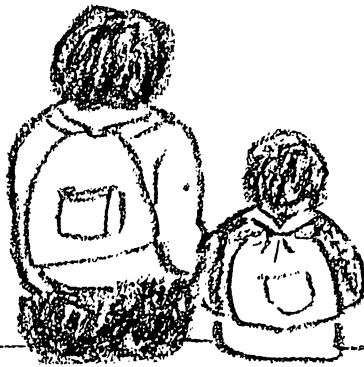
病や心身の障害を通して浮かびあがった人々の強さや優しさは、多くの人を励まし勇気づけることができるのである。疲れ果て絶望し、自分を含め人間自身を軽蔑しはじめた人々に向つて、そうではない、人間はこんなにも強いものなのだということを、病を負う人々は教えてくれる。人間にとつて何が真実なのかを教えてくれるのである。

(知)

感動や反省させられる

「知」さんの話

富田 万里子



毎号楽しみに拝見しています。回を重ねる毎に内容豊かになっていき、それでいていつも爽やかです。ゆつたりとした紙面、明るく心あたたまる記事が一貫してあるからでしょう。

心あたたまる記事の中でも秀逸なのが、「知」さんのコラムです。読ませていただいた後、こんなにやさしい目であったのか、あゝ、こういうこと久しく忘れていた、と感動や反省の無いことはなく、いつまでもひとつひとつの記事が頭に残っています。愛について本一冊を費やして多弁に語られたものが街には氾濫しています。大方のそうしたものより「知」さんの一頁のコラムのほうが私には一読、忘れ難いものがあります。

今までのものをすべて纏めて、いつか一冊の本になればいいなと思っております。もっと多くの人たちに読んでいただきたいお話ばかりですから。

そして、サロン・あべのの今後の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

旭 純子



全二一六ページにわたる私の卒業論文「聴覚障害者福祉に関する一考察―特にろうあ者の生活と権利保障をめぐって―」の連載も今回で終わりをむかえました。大学卒業時は夢中で書いていた卒論も改めて読み返せば、ただ、だからだと長いばかりでいまひとつ論点を絞りきれず、何だかとてもぼんやりと表面を撫でただけの文章になってしまっていたのだナアと反省すること

しきりです。けれど、いま改めて同じ様な卒論を書けと云われても今の私には到底、あのパワーはないナアと感じるところをみると、夢中で走っていたあの頃が私自身の活動においても一番最盛期だったのだと思います。

この卒論を終えて、福祉関係の現場につき実際に様々な人々に触れあう中で、当時、机の上でしか理解していなかったことや思い及ばなかった様々なことが少しづつ見えてくる様になりました。それは、私の手話活動に対する姿勢の変化をももたらしたし、良きに付け悪しきにつけ、ずい分ものわかりが良くなったものだと自分でも感心しています。でも、あまり何でも物わかりが良くなりすぎては多くの問題に対するアンテナがきかなくなってしまう。今の日本社会ではハンディキャップを持つ人々をめぐる周囲の意識またハンディキャップ自身の意識も育ちにくい状態にあると思っているので、活動を通じて「まだまだ、あきらめないゾー」というところを私なりに小出しにしながら、息長く動いていこうと

思っています。

「手話通訳のしかく」に関することその他いくつかの後日談もあるので、また機会があれば書いてみたいナアと思っています。

長いこと拙い文章にお付き合い頂いてどうもありがとうございます。

旭 純子



〇〇 サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました 〇〇

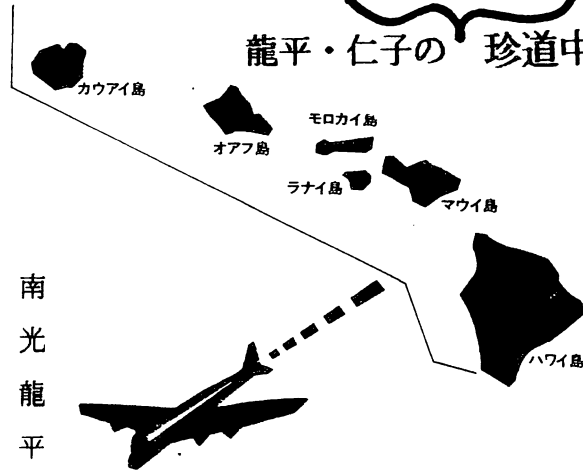
「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていたいただきます。バックナンバーは三九号から、四七号の分があります。サロン紙朗読テープご希望の方は、富田までお申し出下さい。

(TEL 06-691-1028)

ハワイ

龍平・仁子の 珍道中

⑧



またしてもハワイ

いよいよよ 本当の自由行動の一日がやってきた。

他の二組のご夫婦には申し分けないが、

この際今まで二回ハワイに来ている経験を生かし、私達ふたりだけでホノルルの街へ気ままな散策に出掛けることにした。

さて、そのスタイルといえば、サロン・あべのに来ておられる方ならもうお分かりの例のスタイル。女房の電動車椅子の後ろに私がかままって行く、あの電車ごっこのような格好で大阪の街中をうろちよろしているのと同じように、ホノルルの街中もうろちよろしようという訳なのだ。

まずは、土産に頼まれたハワイでしか売っていないTシャツの店を求めてレッツゴー！と、カッコよく言っではみたものの、正直なところ店の場所をはっきりと知らないのだ。添乗員のNさんに尋ねてみたが、「その店ならあちこちにあるし、ガイドブックで捜してみるのも楽しいですよ。」なんて冷たく(?)言われる始末。

しかたなく心細さを取り繕いながら、ガイドブックと首っぴきで出掛けることにした。ところが世の中、「救いの神」は必ずいるもので、ホノルルの地図をにらみつけるようにしていた私の様子を見かねたのか、向こうからわざわざ声を掛けてくれて詳し

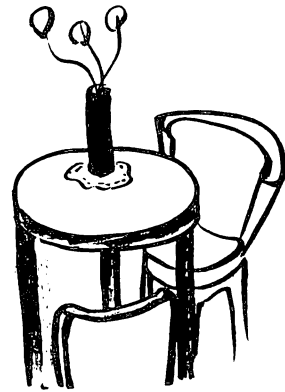
い地図まで書いて教えてくれる親切な人に出会うことができた。

目指すそのTシャツの店は、私達のホテルからは案外近くにあった。店の中は文字通り、Tシャツの山また山。特に、この店の目玉商品であるネコの図柄のものは二〇〇三〇種類もあり、店の壁一面に押しピンで止めてある。その中から一〇枚を選んで、さてHOWマッチ?ということになる。ここで、たかがTシャツなどと思っではいけないことが分かる。遙かなる予算オーバー、なのである。値切る交渉もやってみるが、これも無駄だと知る。しかたなく、選んだうちの何枚かは諦めることにして、予算内に納め一見落着となった。

私には、今回の旅行でフリータイムの折りには、ぜひヨメさんとふたりで行ってみたいと心ひそかに思っていた所があった。五年前に初めてハワイにきたとき泊まったホテル、「ハワイアン・リージェント」である。Tシャツの買い物を終えた私達は、またあの電車ごっこスタイルで海岸通りを走って、そのホテルをを目指すことにした。

(つづく)

美智子のこんな話



岸田 美智子

楽しかった？ ある日

ナンバグランド花月へ、初めて行きました。開場一時間前に玄関前へ着いたのに、もうどこかの団体の人達が、たくさん来ていました。後で知ったのですが、この団体の人達は九州から来られていたそうです。

私は「ワァー並んで待つのかなぁー」と思い少しゲンナリしていました。

でも、係員の女性の人が立って居たので「車椅子なんですけど、どこから入ったらいいのですか。エレベーターは、ありますか」と、入口が二階になるので聞いてみま

した。すると係の人が「エレベーターは、ありませんが、ちょっと待って下さい」といって男の人を二人、呼んできて下さいました。上司らしい男の人が、開場がまだなので、止っていたエスカレーターを動かして車椅子の私を二人がかりで、一番先に入れて下さいました。

この日の出演者は、今いくよ・くるよさん、こずえ・みどりさん・笑福亭仁鶴さん等の人達や、マジックショー、小コメディドラマ等、豊富な内容でおもしろかったです。

でも、始まってすぐ、車椅子のまゝ通路で見ていた私に、さっきの係の女性がとんで来られて「後の人が見えませんか、席に座って下さい」と言われてしまいました。そこで、私は思ったのですが、車椅子の席があったらいいのかなぁー。それに普通の座席に座れない障害者の人は、どうするのかなぁーとも思いました。やはり、障害者への配慮がもう少しあれば、ほんとに笑えたのかなぁーと思った一日でした。

おしらせ

七月の出会い

日時 平成二年七月二日(土)

午後一時〜四時

場所 育徳コミュニティセンター

研修室(車イス・スロープ有)

内容 親ばなれ、子ばなれ

「障害者の自立を応援する

親の立場から」

パネラー「堺自立の家」代表

今井清行氏

会費 なし

問い合わせ TEL: 06-691-1028 (富田慶子)

井感謝します井

カンパ・切手・はがき・冊子・コアラの
マスコット・お茶菓子等、ご協力ありがと
うございました。

お礼を申し上げます。

五月のカンパ 金一四〇〇〇円

秋野富美子、岡賀寿子、小倉寛一、

崎本ヒサエ、田中美智子、矢嶋博士、

安井公子、またによしゆき

匿名二名様(敬称略)



おめでとう、そして
ありがとう。

<サロン・あべの>は、今年度で5周年目に入りました。障害者の地域参加を目標に、毎月の出会いを持ち、多くの方々のふれあいが生れてきました。この喜びを時のままに流れることなく、一つの形に残したいと、二つの企画を立てました。

皆様のご協力をお待ちしています。

(5 周 年 記 念 事 業)

□ 「なんとかして〜な」のビデオ製作
サロン・あべの紙に掲載されている「なんとかして〜な」のビデオを作成します。

シナリオ・演出・撮影等に関心のある方
お手伝い下さい。(担当=原田 仁)

□ 50号記念紙発行

サロン・あべの紙50号を記念紙として発行します。サロンのテーマ「出会い・ふれあい・助けあい」を基にして、自由に書いていただきたいと考えています。

サロンに関わりを持って下さっている皆様全員にご投稿をお願いします。

*字数=「ひとこと、ふたこと」の言葉から10行(200字内)まで。

*締切り=平成2年6月20日

(担当=石田 律)

○問い合わせ先=TEL 06-691-1028

(富田慶子)



あ
り
が
と
う

山
本
篤
江

去年の暮れあたりから、JRの阪和線我孫子町駅の下りホームが、今までより、電車とホームの段差が二、三センチになりました。それまでは、電車に乗るたびに駅員さんに、いちいち板を持って来ていただい

ていたのですが、新しくなってからは、自分一人で乗り降りが、出来るようになりました。普通の人にとっては、別にどうって言うことのないことかもしれませんが、私達にとっては、ものすごく嬉しいことなのです。上りのホームも、なるべく早く段差がなくなれば、今までよりもっと、駅員さんに迷惑をかけなくてすみます。
駅員さん、これからも邪魔くさいでしょうが、よろしくお願いします。
そして、長い間有難うございます。感謝しています。

<サロン・あべの>第48号

発行日 平成 2年 6月16日(土)

発行・編集<サロン・あべの>運営委員会

[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26

電話(06)691-1028富田慶子]

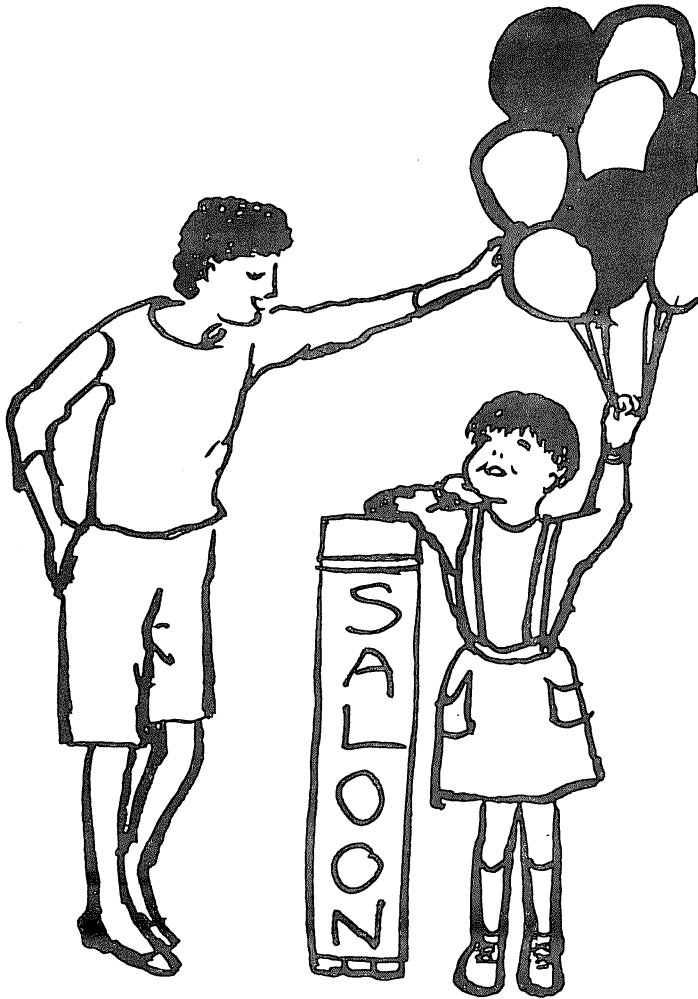
印刷 セルフ社 電話(06)691-2365

[阿倍野区西田辺2-2-10

グレース鶴ヶ丘101号]

定価 ¥62.

お願い



今年も、きらめく太陽の下りあべのカ
ニバルリが八月二十九日(日)に開催される
ことになりました。

毎年、△サロン・あべのVは、サロンの
活動を地域の皆様に知っていただくことと、
△サロン・あべのVの活動資金を得るため
に「なんでも市」にバザー店の参加をして
います。

このバザー店で、販売する品物…ご家庭
に眠っている家庭用品(台所用品・食器・
タオル・シーツ・石鹸・洗剤・雑貨類等)
や、保存可能な食物(ソーメン・ノリ・食
用油・調味料等)のご寄贈を、お願いしま
すと共に、値札付けや、当日の販売等のお
手伝いをお願いしたいと思います。

ご支援・ご協力のお申し出を、お待ちし
ています。どうぞよろしく、お願いいたし
ます。

○問い合わせ先

石田 律 || 阿倍野区昭和町三十一番十三
☎ 六二二二二〇一八

井上憲一 || 阿倍野区西田辺町二二番十一
(株)社) 一〇一 ☎ 六九一一二三六五

辻本輝子 || 阿倍野区阪南町一四〇一五
☎ 六二二二二三四一

富田慶子 || 阿倍野区阪南町六三番二六
☎ 六九一一二〇二八

中原友喜 || 阿倍野区丸山通り二二番十一六
☎ 六五二二二二〇八